ダンボボの花。こんなところに……、と思われる露路に咲いていた。春は、希望を運んでやってきた。

五月の暦（さつき）

1日　メーデー。
2日　八十八夜。
3日　憲法記念日。
5日　子どもの日。児童福祉の日
6日　立夏。
8日　世界赤十字デー。
10日　愛鳥週間。
14日　母の日。
15日　沖縄本土復帰記念日。
18日　国際善意デー。
22日　特定休日（三池炭鉱）。

×

▼…気象庁の長期予報によりますと、初夏は好天が多く、ツユ入りはやや早そう。

五月は高気圧に覆われ、北日本を中心に晴天の日が多いとか。

後半は前線が南岸に停滞。関東以西ではツユ模様の天気に。（以上は連合通信）

さて五月はメーデー。花が散り木の葉が芽ぶき、森羅万象がいきいきと。

そのなか第一回のメーデーは一九二〇年（今から五十八年前）上野で開かれ、弾圧に抗しながら「首切り反対」「最低賃金法制定」「八時間労働」「治安警察法の撤廃」「シベリヤ派遣軍の撤退」など掲げて決起。

一人ひとりの人生を大切にし、仲間を信頼し、お互いにおもいやりの心をもち、勇気をふるって未来のために闘う決意を。さあ、手をとり合おう、五月。

◇　◇

国際婦人デー記念集会の誓い

婦人解放運動強める

なぜ、女教師なら「はずれ」か

全世界の婦人が、平和と民主主義・婦人の解放を目指して起ちあがるべき日だ、としてもうけられた国際婦人デー（三月八日）を記念する集会が、このほど大牟田で開催され、婦人自らの自覚と行動によって、婦人が解放される社会の実現のために闘い続けていくことが、固く誓われました。

記念集会は四月二十日大牟田市の職員会館で盛大に開催され、三池からも二十六人の主婦会員が参加しました。

集会では、福岡県母親連絡協議会会長の堺のえさんから、「国際婦人デーと私たちの課題」について次のようなお話がありました。

×

日本の国際婦人デーが最初にもたれたのが、大正十二年です。山川菊栄、堺真柄、伊藤ノエさんたち進歩的女性の発起によって、東京で千人もの聴集を集め開催されました。

当時は、講演者の演説に対して警官が何回となく「弁士中止ッ」を叫び、男女平等と民主主義を説く講演は中止させられました。

こうした厳しい弾圧の中でも、女性の先駆者の方々によって婦人解放の闘いのともしびは燃えつづけ、今日に受け継がれてきたのです。

婦人問題に対する世界の世論も今は高まり、一九七六年に国際婦人年を契機に、平和・発展・平等をめざす世界行動計画にもとづいて、政府は昨年二月国内行動計画を発実しました。その内容には、女性に対するあらゆる分野での差別と不平等をどのように排除し、そして男女平等を実現するか、などの具体策はまったくありません。そのうえ現実は長びく不況のなかで、合理化のしわよせが、まっ先に職場の婦人に向けられているのです。

今、婦人が働き続けるための壁は厚く、そしてきびしく、一方世間一般の意識のなかにもまだまだ男女間の差別的因習は厳然として根強く残っています。たとえば、あるところで公民館が新築されたので婦人の集会に使用しようとしたら、公民館長さんは男もまだ使っていないのに、と不服をいわれた話さえあります。

四月になると、新入学生をもつお母さん方の話に、男の先生が子どもの担任になったら「当たりッ」、女の先生だと「はずれッ」という声があがるとか。

また企業の側では、女子労働者を指ざして名前をいわないで「うちの女の子が……」という呼び方をされるそうで、「あの人は、女の子という名前ですか?」と反発したくなるという話を聞きました。

家庭生活の面では婦人白書によりますと、共稼ぎの夫が家事を手伝う時間は平均わずか六分間（三池の場合は当てはまらない、と思いますが）だといいます。

このように、男女差別の実態を見ますと、わが国の社会の矛盾・不平等はなおひどいのです。

×

以上のように話していただきましたが、この日集会に参加した婦人は、自分たち婦人はもっと人間的自覚を高め、行動を強めることによって、婦人が解放された社会の実現を目指して闘うことこそ先決だ、ということを改めて認識しなおし、努力することを心から誓い合ったものでした。

失業給付など要求

メーデー、九州は大正11年から

日本初のメーデーは、一九二〇（大正九）年五月二日の日曜日、東京・上野公園に五千人が参加して開かれた。

以後弾圧に抗しながら開かれてきたが、一九三六年に二・二六事件がおこり、日本が戦時体制へ踏みこむと同時にメーデーは開催できなくなった。

では九州で、メーデーはいつごろからはじまったか。

北九州で一九二二（大正十一）年五月一日夜、八幡区尾倉のハイカラ館で「労働祭記念演説会」が開かれた。それが九州で最初のメーデーだった。二年前に大ストライキを行なっただけに、参加も熱鉄労働者が中心で、「失業したら最低月給二カ年分支給せよ」「道路など土木事業の推進」などが要求だった。

女の目

去年の四月原万田地域に来て、主婦会の人達の顔をおぼえるひまもなく、早くも一年を過ごしました。

一日も早く地域の中にとけこまなければ、と気おって見てもこれまで住んできた通万より何分にも大世帯ですので、班の人達をおぼえるにも大変です。

そんなとき、お茶飲み会なるものが実施されました。二回ほど参加して、どうにかこうにかおぼえることができつつあります。

二十四戸の内、二十三戸の新労組員の中での生活ですが、アパートというものはなかなか顔が合わないものです。

そんなとき月一回のお茶飲み会は、私にとって願ってもない有意義なものになりました。

このお茶飲み会を基点にして原万田地域・主婦会員の人達と一日も早くなじんで、組織人の一人として頑張っていかなければならない、と思っているところです。

お茶飲み会

三川・原万田　田中　正子

×

主婦会の皆さん、この欄はこの頃皆さんのいろんなご投稿のおかげでにぎわっております。四季のことでもよいですし、夫婦のこと、嫁と姑とのこと、親と子をめぐること、子どもの進学や就職のことなどで、悩み、よろこび、考えたり、きっといろいろではないでしょうか。また、季節のことや趣味のことでもよいのです。そんなことをつづり方にして書いてください。お礼はございませんが、活字になれば、それが礼などにまさるよろこびになることはうけ合いです。

——編集部

詩

父ちゃんのうた

緑ケ丘　R　子

父ちゃん
四角い顔の父ちゃん
何かに似てる

そう　四角い碁盤

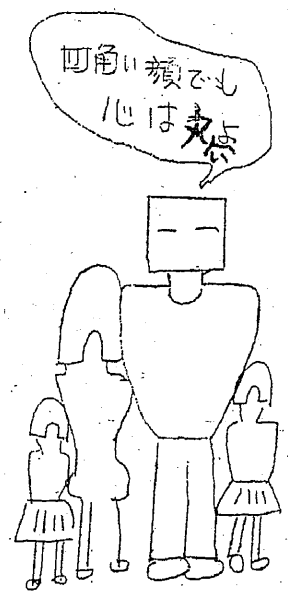
趣味の最先端をゆく最愛の父ちゃん

会社帰りに学校（酒屋）に行く
父ちゃん

そして家に帰った時の父ちゃんの目
細い目

「ア、ア。父ちゃんは焼酎がいっぱい多かね」
ある晩子供が言いました
「父ちゃんが飲んで帰るとすぐ怒るのでこわい」
子供が言います
私もこわいです

でも　父ちゃんと結婚して早や六年
酒を飲まないときはほんとうにやさしい父ちゃんです
「父ちゃんが酒を飲まない時が一番好き」
子供が言います
私も
そんなときの父ちゃんが好きです

×

三川指導部坑外職場新聞〝はぐるま〟（四月十五日発行）から紹介しました。心にじーんとくる詩です。